

2021年9月

秋分の日も過ぎ秋が始まりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナの状況は変異株への警戒はあるものの、新規感染者の数は幸い新たな波とみられるような状況にはなっておりません。皆様におかれましても、地元保健当局の情報などに留意いただき、引き続き必要な対策をとっていただきますようお願いいたします。

連邦下院総選挙



9月20日、カナダの連邦下院総選挙が実施されました。私にとっては2年前、オタワの日本大使館勤務の際に、2019年の総選挙を間近で見て以来2回目の総選挙となりました。

日本の選挙と比べるとカナダの選挙はいくつの特徴があると思います。ひとつ

は、選挙期間が長いことです。今回は 36 日間でしたがこれは決められているルールのうち最も短い期間だったそうです。また大きな特徴として戸別訪問が活動の柱の 1 つとなっているところです。何人か知り合いの候補者を訪ねましたが、いずれの候補者も、選挙期間中一軒あたり最低 2 回の戸別訪問(ドアノッキング)をすと言っていました。カナダの下院は、すべて小選挙区であり、各選挙区は大体 10 万人の有権者がいます。36 日もの間、走り回るので以前お目にかかった時よりも明らかに体が絞られています。また大変お疲れの様子の方もおられました。今回はコロナ禍のため余り開催されないようでしたが、前回の選挙では、候補者が一同に集まり、政策討論会を行っていました。テーマは、身近な福祉や家賃の問題から、外交、防衛にまで広がり、たくさん有権者が会場からあふれ出ていました。このようにして、カナダでは民主主義の質を高めていることに感銘を受けた記憶があります。

選挙の結果は皆さんご案内のとおり、トルドー首相が再び政権を担い少数与党としてカナダを率いることとなりました。

カナダ・メディアの東京 2020 チームとの意見交換

オンタリオに本拠を置く CBC (国営放送)から東京 2020・オリンピック・パラリンピック競技大会取材するため、日本を訪問された方々を招いてお話を聞く機会に

恵まれました。いずれの皆さんも現場の声として、日本の大会運営の巧みさ、感染対策の確実さ、対応の迅速さなどを口揃えて賞賛しておられました。多くのボランティアの方が、大変親切に、選手の方のみならずマスコミを含めた関係者の方を温かく出迎え、もてなしてくれたことにも賛辞を送っておられました。コロナの中で無事に大会を運営できるのは、日本だけであろうとの感想もきかれました。アスリートたちにとっても無観客の中、実力を発揮するのは容易ではありません。メディアの方たちはいかにアスリートたちが集中力を切らさず、ベストの力を発揮していたかを臨場感を持って話していただきました。

最近外に出かけると、少なからぬ方から、「東京2020の開催ありがとう。」と声をかけられることがあります。様々な議論がありましたが、ここカナダでは東京2020は強い印象を残し、高く評価する声が多く聞かれました。



CBC (国営放送)の東京2020チーム

トロント郊外でのレース行事に参加

夏の終わりに、トロントから北に 60 キロほど、INNISFIL という街のサンセット・スピードウェーで開催された自動車レースを見学する機会を得ました。ミシサガに工場を構える、ベアリング製造の NTN 社が、女性ドライバーを支援しているのです。私はヘイゼル・マカリオン前ミシサガ市長、(本年満 100 歳です。)、この地区を選挙区とする、ジョン・ブラッサード下院議員、またマイク・ハリス前オンタリオ州知事とともに観客に挨拶する機会がありました。夏の終わりの抜けるような青空の下、このようなイベントに参加する機会が得られたこと、またこのようなイベントを支える皆さんに感謝の意を伝え、また多数の日本企業を擁するオンタリオ州の皆さんに感謝を伝えることができました。カナダの地元の人たちのパワーを感じることもできる貴重な体験となりました。

